日本ＳＯＤ研究会報

特集 丹羽療法 治療レポート

オゾン層の破壊で増え続ける 皮膚がん

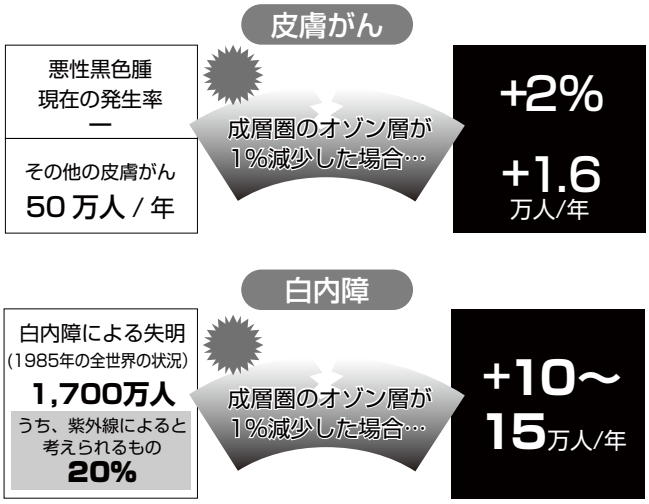
マグニー石、家庭での活用法

発行元 日本ＳＯＤ研究会 藤沢
住　所 〒154-0012
東京都世田谷区
駒沢 5-13-1-205
TEL. 03-5787-3498
http://www.sod-jpn.org/

今回、愛飲者の方から頂いた質問は、紫外線が原因のひとつである皮膚がんです。この疾患、もともとは白人に多く、黄色人種である日本人にはきわめて少ない病気でした。肌の色が黒くなればなるほど、紫外線に対する抵抗力の強いメラニンが多いからです。ところが、ここ数十年の間に大気汚染が進み、強い紫外線から地球を保護してくれていたオゾン層が破壊されています。おのずと地球に降り注ぐ紫外線の強さは半世紀前とは比較にならないほど多いのです。現に厚生労働省の調べによると、１９７５年に人口10万人に一人か二人だった皮膚がんの発症が、２０００年代に入り５人に変化しています。つまり５倍に増えたということです。世界的にみるとその増え方は毎年倍々の勢いです。「表1」のようにオゾン層が１％減少しただけで皮膚がんを始めとした様々な疾患が十万人単位で増え続けるのです。

ここでその紫外線によって発症

【表 1】
世界における紫外線増加による健康影響



※皮膚がんについては、いずれもアメリカ人のデータに基づく推定。

日本人をはじめ有色人種は白色人種に比べて紫外線の影響が少ないことがわかっています。なお、その他の皮膚がんについては、全世界ではアメリカの 3 倍、年間 4.8 万人の増加と推定されています。

（UNEP : Environmental Effects Panel Report.1989）

する皮膚がんというものについて少し紹介します。皮膚がんとひとことで言ってもその数は数十種類にも及びます。代表的な皮膚がんとしては、有棘細胞がん、基底細胞がん、悪性黒色腫（メラノーマ）の３つがあります。

有棘細胞がんは、皮膚の少し深いところ（表皮の中間層）の有棘層細胞から発生するがんで、日本人に多い皮膚がんのひとつです。有棘細胞がんが発生すると、その場所の皮膚は盛り上がってきます。進行すると、さらに大きくなり、さわると「しこり」を感じ、しこりの真ん中がえぐれて、ただれたり潰瘍ができ、出血したりします。皮膚の表面が弱くなってしまうので、細菌による感染をおこしやすく、膿や悪臭が出たりします。全身へ転移する可能性もあります。

基底細胞がんは、皮膚の表皮の最下層である基底層（上の有棘細胞がんが発生する部分よりも少し深いところ）や毛包（毛穴の奥で毛根を包んでいるところ）などを構成する細胞から発生するがんで、顔にできることが多いです。日本人でもっとも多い皮膚がんです。初期症状は、痛みやかゆみなどの無い黒色や灰黒色で光沢のある小さなしこりができるのでほくろによく似ています。何年もの時間をかけて少しづつ大きくなって、そのうち真ん中の部分がえぐれて潰瘍となり、出血します。このがんは進行しても転移することはほとんどありませんから治りやすいがんといえます。

悪性黒色腫は、ほくろのがんとしてもよく知られているものです。健康な皮膚から発生することもありますが、ほとんどの場合はほくろや黒あざから発生します。黒色腫またはメラノーマと呼ばれることもあります。皮膚の色と関係するメラニン色素をつくるメラノサイト、またはほくろの細胞ががん化し発生します。皮膚がんの中でもっとも悪性度が高く、転移も早いです。悪性黒色腫は皮膚のどの場所にも発生しますが、足の裏にいちばん多く発生して、体幹、手のひら、顔面、つめ、などにも発生します。ほくろに似てはいますが、ほくろとは違い左右対称ではなく、ふちがはっきりしていなくてギザギザしていて、色むらがあります。直径が５～６㎜以上にまで大きくなってきた場合は、悪性黒色腫である可能性が高いので、要注意です。

そこで丹羽先生に、この皮膚がんについての最近の診療現場からみる注意点などをうかがってきました。

10人に1人が皮膚がんのオーストラリア

――先生、最近、日本人にも皮膚がんが増えているという話ですが、現場ではいかがでしょうか

「増えている種類のものもあるし、そうでないものもあります。相対的には増えているでしょうね。日本はまだましだが、オーストラリアやカナダはものすごく増えている。オゾン層の破壊は北極と南極の上で起きているから、北極、南極により近い国が危険です」

――やはり皮膚がんの大きな原因は紫外線ですか

「そうです。紫外線は殺菌効果がありますよね。紫外線は地球上の物体にぶつかると、活性酸素が４種類ありましてその中でいちばん強い$^1O_2$（オーツーワン）というのを発生させるのです。これがカビやばい菌を強力に殺菌してくれるんです。しかし、これは当たりすぎてもいけない。活性酸素はカビやばい菌を殺してくれるけれど当たりすぎると人間をやっつけるから。紫外線をコントロールしてくれていたオゾン層が破壊され、地球上に降りてくる紫外線の量が昔の何十倍にもなったんです。そうすると紫外線によって発生する活性酸素も何十倍にもなりました。その

紫外線が皮膚の正常な作用を壊すのが、日光角化症です。これはがんの一歩手前の症状です。強い紫外線に長年さらされて皮膚の遺伝子が壊れて起こるのです」

――どのような症状がでるのでしょうか

「褐色の色素斑が盛り上がってくるんです。ほくろやいぼとは違いますね」

――痛みやかゆみなどは

「あまりないです。日光にあたる部分にできるので、手や顔などにできたら診察してもらったほうがいいですね。この日光角化症や悪性黒子からがんになるのだから」

――加齢とも関係ありますか

「もちろんあります。日に当たる場所で長年仕事をやってきたお年寄りに多いですよ。年齢と共にＳＯＤが減って、活性酸素を除去する能力が落ちるのだから」

――この皮膚がんから転移や生死にかかわることというのはあるのでしょうか

「あります。まず転移としては肺ですね。その前に手術をして切除すればたいていは治ります。しかし、手遅れになると肺に転移しますよ」

――やはり日本人も常日頃、気をつけたほうがいいんでしょうか

「普通の日本人はそうそうならないけど、北海道の人は気をつけたほうがいい。北海道は日本の中でいちばん北極に近いですね。つまり、いちばん紫外線がきついんです。僕は14、15年前から北海道に

は毎月行っている。北海道のお日様に当たると、いやーな感じがします。土佐清水のお日様に当たっているのとはわけが違う。今、世界でいちばん皮膚がんが多いのは、オーストラリアの北東部なんです。オーストラリアの人は、18世紀、イギリスのケルト人が移住してきた。イギリスとアイルランド。アイルランドはロンドンよりももっと北なんです。日本の緯度でいうと樺太の北に当たる。そうすると、紫外線に対する免疫力がないから、いきなり赤道近くに来て、どんどん皮膚がんになった。ところが、この、15、16年前からコロっと変った。オゾン層が破れているでしょ。だから南極に近いオーストラリアの南部にめちゃくちゃ紫外線が当たるんです。オーストラリア人は10人に1人は皮膚の前がん症状です。オーストラリアの小学生、長袖を着て歩かないと親が罰金取られる。家を建てるとき、紫外線カットの窓ガラスにしないと建築許可が出ないんです」

――予防としては日焼け止めクリームや日傘、帽子でしょうか

「あのね、日焼け止めクリーム、あれは効かないですよ。ＳＰＦ値50とか書いてあるでしょ。あれは5ミリくらいの厚さで塗った場合です。上品にスッと塗ったって効かない。まだＵＶカットの服のほうがいい。あと、日に当たる日は前もってＳＯＤを多めに飲んでから出かけるといいです。それとビタミンＣを多く摂ることです。これも化学物質のサプリメントはいかんよ。なんにも効果ない。自然の食品、グレープフルーツがいちばんいい。2個くらい食べて出かけるといいね」

◆丹羽先生診察ご希望の方は
御紹介、御予約いたします。
※自由診療となります。
丹羽メディカル研究所
☎０１２０（７３１）１７５
もしくは
日本ＳＯＤ研究会
☎０３（５７８７）３４９８
まで　お電話ください。

――先生のマグニークリーム（マグニー石を細かく粉砕し、独自の製法でクリームにしたもの）は日焼けに効果的だとうかがったのですが

「ああ、すごくいい。マグニー（※注1参照）は日焼け後のケアに最高です」

日焼けの後のケアにマグニークリーム 入浴にはマグニーボール

――マグニーにはいろいろな効果があるのですね。皮膚がんから話は違うのですが、このマグニー石に関して最近質問が多いんです。販売されている先生のマグニー石をご家庭で購入される方が多く、その活用法を教えてほしいと

「使い方は二通り。一つは入浴に使う。目の細かい洗濯ネットにマグニーを入れて風呂に入れるんです。次にマグニーを電子レンジなどで温めて神経痛、腰痛、肩こりなどの患部に当てる方法です」

――その場合の量はどれくらい

「風呂には最低でも3キロくらい入れるといいですね。患部に当てるのは1キロくらいでもいい。15分から20分当てているといい。クリームはさっきもいったが日焼けの後のケアですね。あと、これはうちではアトピーの患者さんの黒ずんだ皮膚を再生するためによく使っています。だから、これを塗るとシミも薄くなります」

――なるほど、ＳＯＤとマグニーは家庭に常備かもしれませんね

「そういうことです」

注1：マグニー石

土佐清水病院を始め全国数か所であらゆる疾患の治療に使用されているサンドバス（石風呂）のもとになるマグニー石について、丹羽先生が執筆された資料から紹介します。

「元来、太陽光線（エネルギー）を吸収した地球上の岩石類〈樹木も含め〉は、当然吸収したものを再放射する力を持っています。この太陽光線（エネルギー）の中には、動・植・物の成長に必要な４～14μmの育光線を初めとする色々な長さの波長をもった有益な光線即ち電磁波・エネルギーが含まれています。地球は太古の時代溶岩でドロドロだったその時代に太陽エネルギーを吸収して岩石になったもの、また、この太陽エネルギーを吸収した天体の岩石が地球上に降って来て地上に隕石として存在するものなどがあります。以上のことから地球上の岩石類は大なり小なり、太陽エネルギーの中の、人体の成育に必要なエネルギーを再放射する力を持っているのです。最近流行の色々健康に有益な石や砂、トルマリンやセラミックと云われるものが薬石として健康産業の人々を通して販売されていますが、これは皆誤りではありません。ただ、その石の放射するエネルギーが強いか弱いかの差によって優劣が決まるのです。私が自然回帰の医療を標榜して20年になりますが、その丹羽療法の開発の歴史の最後に達し、得られた最高のものが、何十億年もの間、地球のマグマが噴出して出来た、この北陸・五頭山系の地底（鉱底）に眠る〝国宝石・マグニー〟です。この国宝石・マグニーは、最近注目されて来た、〝水の浄化〟や〝健康増進〟に用いられる種々の薬石、岩石類（トルマリン石等を含む）やセラミック類より、比較にならないほど強力なパワーを有する、電磁波・育成光線（成長エネルギー）を放射するのです」■

土佐清水病院の治療にも使われているサンドバスはマグニー石を豊富に含む

SOD愛飲者インタビュー

50代でアレルギーから乾癬、60代でリウマチに

多めに飲んだSOD効果

茨城県　角野美津子さん（65歳）

昔からアレルギー体質だったという美津子さんが手のひらの湿疹に悩まされるようになったのは10数年前のことでした。ちょうど年齢的にも更年期まっただなか。この時期はホルモンのバランスが崩れ、女性の身体のさまざまなところに支障が生じます。

「手の平が割れてひびが入り、かゆいものだから掻きむしって、血まで出て大変でした」

近所の病院にも行ったのですが、原因は分からないけれど、アレルギー体質が原因のひとつかもしれないからと、体質改善の注射を打ってもらってその場をしのいでいたそうです。そんな美津子さんはずっと地元の商店街にある洋服屋で働いていました。接客仕事ですから、手が荒れているとどうしてもお客さんに失礼にあたります。

「季節に関係なくこういった状態が3年くらい続きましていっこうに良くならないので、これは大きな病院にいかないといけないかなと。でも、大きな病院は待ち時間が長いでしょ？お仕事を休んでいかないといけないし大変なんですよね。それでもうがまんできなくて総合病院の皮膚科に行ったんです」

総合病院で言われた病名は、乾癬かもしれない、というあいまいなものでした。乾癬とは皮膚にうろこ状のかさつきができる疾患で、手などにできると痒みや痛みを伴い、一生続くことが多い皮膚病だといわれています。原因は不明で遺伝性のものともされています。美津子さんはその乾癬ではないかと言われ、皮膚科ではお決まりのステロイドを処方されました。

「2年くらい通ってステロイドを塗っていたんですが、気づいたら皮膚がステロイドのせいでまだらに白く透けてきたんです。もう、びっくりしました。皮膚が弱くなっているのが分かるんですから」

そんなとき、美津子さんが皮膚疾患で悩んでいるのを知ったご近所の知り合いが、丹羽先生の診察を勧めてくれたのです。

「勧めてくださった知り合いのお嬢さんがやはり皮膚に湿疹ができ、何年も皮膚科の病院に通っても良くならなかったんです。それが、丹羽先生の診療所ですごく良くなったから、一度、新横浜の診療所に一緒にいかない？　と誘ってくださったんです」

発症してすぐのときだったら、茨城から新横浜まではさすがに行かなかったかもしれません。しかし、美津子さんはこのときすでに5年近くも通院して一向に良くならないどころか悪化してたのですから、「これよりマシならば」行ってみようと思われたそうです。

仕事を休んで行かれた初めての診療所では、初診の方が必ず受ける先生のショートスピーチを受け、先生の治療法が他の病院とはかなり違う、体に副作用や害のない、とてもよさそうなものだというのが分かった美津子さん。

「その日は軟膏を処方していただいて帰ったんです。そして翌日、商店街のおとなりのお店のご主人が、私が昨日休んでいたものですから、どこか悪かったのか聞かれたので、丹羽先生のところに行っていた話をしたんです。そうしたらなんと、そのご主人のお父様、先代社長が脳に腫瘍ができて丹羽先生の病院に入院されたことがあると言うんです」

先代社長は、末期の脳腫瘍で病院から余命宣告を受けていたそうです。結果としては亡くなられたけれど、余命より長生きし、最後はとても安らかだったとか。以来、

そのご主人はＳＯＤの愛飲者になりました。

「なんでもお父さんが病気のときに相当いろいろ調べられたようで、抗がん剤のことや、薬の副作用のことや、今の西洋医学の限界のはなしなど、ものすごく詳しいんです」

それでＳＯＤを勧められ、最初は１日に４包ずつ飲み始めた美津子さん。そうしたら効果はてきめん。３ヵ月くらいですっかり良くなったのです。

「ほんとうに嬉しかったですね。すっかり良くなったものですから、もう治ったんだと思って、ＳＯＤはやめてしまったんです。そうしたら半年くらいしてまた発症しました。あわててまた飲み始めました（笑）」

すると症状はものの見事に消えました。しかし60歳という年齢でしたから無理は禁物。

「そうなんですね、ちょうど５年前の60歳のとき、今度はリウマチが出てきたんです。始めは体が腫れぼったくて、左の人差し指が腱鞘炎のような感じで動かすと痛むんです。これはひょっとしたらリウマチじゃないかと心配になって近くの病院に行ったんです」

血液と尿による検査の結果はリウマチの数値が出ていないということでした。

「単なる腱鞘炎だろうからと、湿布薬をもらって帰ったんです。でもいっこうに良くならないし、しばらくしたら今度は右の中指が同じような状態になって」

その症状は日ごとに悪くなり、今度は大きな総合病院で診察をしてもらいました。結果は

「リウマチといわれました。血液検査や尿検査では出ないこともあるけれど、症状はおそらくリウマチだからといって薬を処方されました。それからしばらくしたらやっぱり数値にも現れたんです」

そのとき、美津子さんの頭に、毎月届くＳＯＤの会報のことが浮かびました。

「リウマチには最初はＳＯＤを10包から12包飲むといい、という丹羽先生のお話があったのを思い出したんです。12包と言われると最初はみなさんためらいますよね。高価ですし、そんなにも飲めないって思いましたけど、やはり良くなりたい一心で先生のお話を信じました。それで12包ずつ飲み始めたらなんと２か月くらいで痛みがなくなったんです。もちろん、体のむくみもなく、なによりも体がまったく疲れないんです。みんなに、いつも顔色が良くて元気だね、疲れた顔してないよねって言われるようになったんです。嬉しいですね」

確かに、そのお声から察するに、30代から40代の方かなと思わせるような張りのある明るい応対に驚きました。やはり健康な方は声からもオーラが出ています。

「ほんとうにみなさんから活気があるって言われるんです。ＳＯＤってすごいですね。うちは息子にもアレルギーがあって、アルコールを飲むと体に湿疹が出る体質なんです。それで先日、ＳＯＤを一箱送ったら、１包ずつしか飲んでいないのに、すっかり治ったんです。若いということなんでしょうね。常用したいと言っています。私は今は６包ずつ飲んでいます。ＳＯＤさえあれば老後も怖くない。もちろん、もう手放せません」

ＳＯＤ様作用食品
体験者の声を
お聞かせ下さい。

難病で苦しむ方たちが、少しでも早く良い治療法に行き当たるように、本誌では愛飲者の声を募集しています。お手数ですが、

〒154-0012 東京都 世田谷区
駒沢 5-13-1-205
日本SOD研究会　藤沢宛
TEL 03－5787－3498
までご一報ください。